

改訂前	改訂後																																														
第3編 材料及び諸係数 第2章 鋼材 2.5 防食 2.5.5 腐食代付与による方法 腐食代による防食方法とは、鋼材の腐食を抑えずに強度上必要な肉厚に腐食代として余剰肉厚を加算するものである。水面下にある漁場の施設の防食については、維持補修の難しさを考慮し、原則として腐食代付与による方法とするのがよい。また、構造物の背面土中部は、海側に比較して通常腐食速度が小さいことや、極端な集中腐食を生じないこと等から、腐食代付与による方法を原則とする。ただし、裏込め土に廃棄物などを使用し、腐食性が強いと推察される場合は、事前に調査を行い適切な防食を講じるのが望ましい²⁰⁾。 鋼材の平均腐食速度は表 3-2-12 の値を標準とする。ただし、捨石マウンドに覆われる部分や、砂による摩耗等、特別な条件を考慮する必要がある場合は、近傍の実例を調査するなどして定めることができる。 腐食代は一般に {平均腐食速度 (mm／年)} × {防食期間 (年)} で算出される。 表 3-2-12 鋼材の平均腐食速度 (片面) <table><tr><th colspan="2">腐食環境</th><th>腐食速度 (mm／年)</th></tr><tr><td rowspan="6">海側</td><td>H.W.L.以上</td><td>0.3</td></tr><tr><td>H.W.L.～L.W.L.－1.0m</td><td>0.1～0.3</td></tr><tr><td>L.W.L.－1.0m～水深20m</td><td>0.1～0.2</td></tr><tr><td>水深20～50m</td><td>0.06</td></tr><tr><td>水深50m以深</td><td>0.045</td></tr><tr><td>海底泥層中</td><td>0.03</td></tr><tr><td rowspan="3">陸側</td><td>陸上大気中</td><td>0.1</td></tr><tr><td>土中 (残留水位上)</td><td>0.03</td></tr><tr><td>土中 (残留水位下)</td><td>0.02</td></tr></table> (参考文献) (新設)	腐食環境		腐食速度 (mm／年)	海側	H.W.L.以上	0.3	H.W.L.～L.W.L.－1.0m	0.1～0.3	L.W.L.－1.0m～水深20m	0.1～0.2	水深20～50m	0.06	水深50m以深	0.045	海底泥層中	0.03	陸側	陸上大気中	0.1	土中 (残留水位上)	0.03	土中 (残留水位下)	0.02	第3編 材料及び諸係数 第2章 鋼材 2.5 防食 2.5.5 腐食代付与による方法 腐食代による防食方法とは、鋼材の腐食を抑えずに強度上必要な肉厚に腐食代として余剰肉厚を加算するものである。水面下にある漁場の施設の防食については、維持補修の難しさを考慮し、原則として腐食代付与による方法とするのがよい。また、構造物の背面土中部は、海側に比較して通常腐食速度が小さいことや、極端な集中腐食を生じないこと等から、腐食代付与による方法を原則とする。ただし、裏込め土に廃棄物などを使用し、腐食性が強いと推察される場合は、事前に調査を行い適切な防食を講じるのが望ましい²⁰⁾。 鋼材の平均腐食速度は表 3-2-12 の値を標準とする。ただし、捨石マウンドに覆われる部分や、砂による摩耗等、特別な条件を考慮する必要がある場合は、近傍の実例を調査するなどして定めることができる。 腐食代は一般に {平均腐食速度 (mm／年)} × {防食期間 (年)} で算出される。 表 3-2-12 鋼材の平均腐食速度 (片面) <table><tr><th colspan="2">腐食環境</th><th>腐食速度 (mm／年)</th></tr><tr><td rowspan="6">海側</td><td>H.W.L.以上</td><td>0.3</td></tr><tr><td>H.W.L.～L.W.L.－1.0m</td><td>0.1～0.3</td></tr><tr><td>L.W.L.－1.0m～水深20m</td><td>0.1～0.2</td></tr><tr><td>水深20～50m</td><td>0.06</td></tr><tr><td>水深50m以深</td><td>0.045</td></tr><tr><td>海底泥層中</td><td>0.03</td></tr><tr><td rowspan="3">陸側</td><td>陸上大気中</td><td>0.1</td></tr><tr><td>土中 (残留水位上)</td><td>0.03</td></tr><tr><td>土中 (残留水位下)</td><td>0.02</td></tr></table> <u>なお、寺島ら²¹⁾は水深 50m 前後に設置した鋼製魚礁に係る腐食速度の経年変化を示しており参考にすることができる。</u> (参考文献) <u>21) 寺島知己・酒井範幸・堅川勝三・上北征男：鋼製魚礁の耐久性 (第4報)、2021 年度日本水産工学会学術講演会 学術講演論文集、鋼製魚礁の耐久性 (第4報), pp.91-94</u>	腐食環境		腐食速度 (mm／年)	海側	H.W.L.以上	0.3	H.W.L.～L.W.L.－1.0m	0.1～0.3	L.W.L.－1.0m～水深20m	0.1～0.2	水深20～50m	0.06	水深50m以深	0.045	海底泥層中	0.03	陸側	陸上大気中	0.1	土中 (残留水位上)	0.03	土中 (残留水位下)	0.02
腐食環境		腐食速度 (mm／年)																																													
海側	H.W.L.以上	0.3																																													
	H.W.L.～L.W.L.－1.0m	0.1～0.3																																													
	L.W.L.－1.0m～水深20m	0.1～0.2																																													
	水深20～50m	0.06																																													
	水深50m以深	0.045																																													
	海底泥層中	0.03																																													
陸側	陸上大気中	0.1																																													
	土中 (残留水位上)	0.03																																													
	土中 (残留水位下)	0.02																																													
腐食環境		腐食速度 (mm／年)																																													
海側	H.W.L.以上	0.3																																													
	H.W.L.～L.W.L.－1.0m	0.1～0.3																																													
	L.W.L.－1.0m～水深20m	0.1～0.2																																													
	水深20～50m	0.06																																													
	水深50m以深	0.045																																													
	海底泥層中	0.03																																													
陸側	陸上大気中	0.1																																													
	土中 (残留水位上)	0.03																																													
	土中 (残留水位下)	0.02																																													